

# 民主青年新聞

●ホームページ www.dylj.or.jp ●Eメール minsin@dylj.or.jp

見どころ

被災地に寄り添う復興を 東日本大震災から12年(2、3面)  
「無償化」に隠された競争 大阪維新の会 私立高校「無償化」 (6、7面)  
研究力を低下させる研究者の大量雇い止め(10、11面)

## 「危険と希望」を広げて戦争国家づくり止めよう！

### 「二つの大ウソ」暴く

3月8日夜、日本民主青年同盟は「この国を『戦争国家』にしていいのか!?」の民青同盟が視聴会場を設けて参加。リアルタイムで日本共産党・志位委員長と3000人ほど参加し、学習会前半では、「戦争国家」づくりの危険性について話しました。「敵基地攻撃能力とは何なのか」

「なぜ保有しようとしているのか」「保有の結果何が起きるのか」などについて話しました。志位さんは、岸田文雄政権が導入しようとしている長射程ミサイルを紹介。その射程は推定1600キロから3000キロと、東アジアの主要都市がすっぽり射程内に入るものだと説明しました。志位さん

「専守防衛」に徹するのではなく、「他国に脅威を与える軍事大国」そのものでないか」と厳しく批判しました。さらに、敵基地攻撃能力保有の目的は米国の戦争に一緒に参加するための指

針、敵基地攻撃能力を保有し、米国の「統合防空ミサイル防衛(IAMD)」に組み込まれた結果、訪れるのは報復攻撃による日本の焦土化であるとし、「日本を守る」というのは大ウソ。『日本を守る』どころか、日本に戦争を呼び込み、国土を焦土化する。こ

「二つの大ウソ」を暴く。共産党の「外交ビジョン」を紹介。「あらゆる紛争を話し合いで解決する」と、志位さんは「確かに大ウソ。『日本を守る』どころか、日本に戦争を呼び込み、国土を焦土化する。この根本的な考え」と、戦争の惨禍を経て

## 「この国を『戦争国家』にしているのか」学習会



▲学習会の講師として登壇し、青年に語りかける志位委員長(写真右、8日)

- |  |   |
|--|---|
| Q1 政府が保有しようとしている敵基地攻撃能力とは具体的にどのようなものか? | Q6 今後どれくらい軍事費を増やすのか。暮らしの予算が圧迫されそうで心配です。 |
| Q2 何のために敵基地攻撃能力を持つようしているのか?            | Q7 東アジアで軍事でなく外交で平和的な秩序をつくっていく方法は?       |
| Q3 先制攻撃となると、そのあとは日本も攻撃されるリスクがあるということか? | Q8 ウクライナは軍事同盟に入らなかったから攻められたという意見もありますが? |
| Q4 敵基地攻撃能力を持つことが抑止力となって日本が守られる?        | Q9 「新しい戦前」ともいわれるが、今の情勢を全体としてどう見ているか?    |
| Q5 日本国憲法がある下で、なぜ敵基地攻撃能力を持つことができるのか?    | Q10 今の情勢の下で私たちにできることは何か?                |

- 当日質問**
- Q 中国との関係はやはり心配です。志位さんが率直に中国をどのように見ているか、教えてください。
  - Q こんなに危険なことが起きているのに、どうしてニュースでは問題になっていないのか。また、他の政党はどのような立場を取っているのか。



← 学習会は YouTube で視聴できます。

### 行動提起

同盟員の皆さんに行動提起を行います。いま民青同盟は全国各地でたくさんの青年学生と対話し、その中で強い共感が寄せられています。同盟員拡大は前回大会期同日比約1.8倍の前進となっています。この大きくなりつつある民青同盟の組織をあげて「戦争国家」づくりをなんとかしても阻止しようではありませんか。第一に本日提起したいのは、この学習会を力に、速やかに、「戦争国家」づくり阻止のたたかい、全国青年憲法運動に踏み出そうということです。いち早くこの学習会の内容を全同盟員に徹底し、「戦争国家」づくり阻止のたたかいに望む機運を高めていきましょう。第二に、全ての班が各地の若者憲法集会実行委員会に力を合わせ、各

実行委員会のアピール賛同目標達成のために力を尽くしましょう。若者憲法集会実行委員会の呼びかけた3月18、19日の一斉行動を位置付け、首都圏は18日の新宿出発のデモに参加し、それ以外の各地では一斉にデモや宣伝対話を行いましょ。第三に、草の根の全国青年憲法運動で世論をつくり、共に行動する青年を増やし、6月11日の集会本番を成功させること、このことを、共青以来反戦平和の旗を掲げてきた民青同盟の使命と自覚し、まずこの3月に大きな運動の高揚をつくることを呼びかけます。これは「戦争国家」づくり阻止のために必要であるとともに、学生新歓や統一地方選挙をたたかう上でも力になるとりくみです。共にがんばりましょう。

### 戦前にならないし、させない

後半は、平和を築く「希望」について話しました。平和な秩序をつくる方法は

「50年かけて、ASEANは紛争があっても、絶対に戦争は起きない地域にならな

最後、私たちにできることについて、志位さんは「二つの大ウソ」を暴くとともに、平和の対案を語り、平和への希望を語ること、と答えました。評論家の加藤周一さんの言葉を紹介し、「戦争の準備ではなく、平和の準備を——この言葉を合言葉にたたかおう」と呼びかけました。学習会の終わりに、民青同盟の西川龍平委員長が行動提起を読み上げ、民青同盟の組織をあげて「戦争国家」づくりをなんとかしても阻止しようと呼びかけました。